

(7) 大井川南地区

大井川南地区の課題のまとめ

- ・地区内では、想定されるハザード(津波・揺れ・火災)と高齢化率・木造建物の割合などを考慮すると、高新田が最も脆弱である。
- ・地区別では、津波による全壊建物数が最も多い地区である。
- ・市営港湾である大井川港全域が浸水区域であり、港湾施設の被災とともに大井川港に面して石油タンクを有した施設が立地しており、2次災害を引き起こす可能性がある。

※静岡県第4次地震被害想定において、現在の科学的知見に基づき推計したのですが、自然災害を完全に把握することは困難です。
個々の地点の推計結果にとらわれず、地域全体の傾向を示したものととして、報告を受けとめてください。

地域特性にみる課題

人的被害

- ① 津波による避難困難者の発生: 高新田の東部、吉永の東部、利右衛門の東部、飯淵の東部で避難困難者が発生すると想定される。
- ② 建物倒壊による人的被害・避難経路の途絶: 昭和57年以降に建設された建物割合は市の平均より高いが、地区の中では高新田で低い。想定される震度6強の揺れの発生時には、建物倒壊による人的被害が懸念される。
- ③ 液状化による人的被害・避難経路の途絶: 利右衛門、飯淵、中島に液状化危険度ランク中が分布しており、人的被害が懸念される。
- ④ 狭隘な避難経路: 吉永、飯淵の生活道路は狭隘な道路が中心となっているため、迅速な避難が困難となる可能性がある。
- ⑤ 高い高齢化率: 高齢化率は約22%(市平均23.5%)であるが、地区の中では高新田で高く、迅速な避難が困難となる可能性がある。
- ⑥ 浸水域に立地する観光施設: 「大井川河口野鳥園」は通年で観光客が一日当たり約20人来訪し、施設周辺にいる観光客の避難誘導を検討する必要がある。

建物・交通施設被害

- ⑦ 津波による建物倒壊: 高新田の東部、吉永の東部、利右衛門の東部、飯淵の東部に浸水域が分布しており、津波による全壊建物数は市内で最も多い約310棟と想定される。
- ⑧ 地震動による建物倒壊: 全域で震度6以上の揺れが想定されている。揺れによる建物全壊数は約610棟と想定される。
- ⑨ 液状化による建物倒壊: 利右衛門、飯淵、中島に液状化危険度ランク中が分布しており、数は少ないながらも、液状化によって全壊する建物も想定されている。
- ⑩ 火災による建物倒壊: 火災による全壊建物数は約40棟と想定される。大井川港に面して石油タンクを有した施設が立地しており、地震・津波発生後の火災による建物被害が懸念される。

産業・経済被害

- ⑪ 浸水域に立地する工業施設: 大井川港に面して比較的大規模な工場が集積しており、その大部分が浸水域に含まれるため、経済的被害が懸念される。
- ⑫ 浸水域に立地する港湾関連施設: 市営港湾である大井川港全域が浸水域に含まれる。物資の輸送やサクラエビ、シラスなどの沿岸漁業など経済的被害が懸念される。

課題図

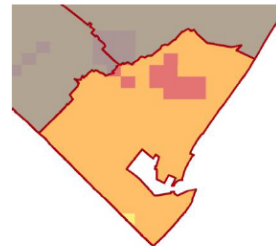
凡例

- ① 浸水域に立地する工業施設
- ② 浸水域に立地する観光施設
- ③ 津波による避難困難者の発生
- ④ 津波による建物倒壊
- ⑤ 高い高齢化率
- ⑥ 狭隘な避難経路
- ⑦ 高い高齢化率
- ⑧ 地区境界
- ⑨ 鉄道
- ⑩ 道路種別
- ⑪ 高速自動車道
- ⑫ 一般国道
- ⑬ 主要地方道
- ⑭ 一般都道府県道
- ⑮ 河川
- ⑯ 1cm以上の津波浸水域(レベル2)

⑩ 火災による建物倒壊



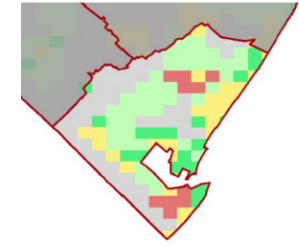
震度分布



- ② 建物倒壊による人的被害・避難経路の途絶
- ⑧ 地震動による建物倒壊

- 凡例
南海トラフ巨大地震 基本ケース
震度階級
7 (red)
6 (orange)
6弱 (yellow)

液状化危険度



- ③ 液状化による人的被害・避難経路の途絶
- ⑨ 液状化による建物倒壊

- 凡例
南海トラフ巨大地震 基本ケース
液状化危険度ランク
大(液状化危険度が高い) (red)
中(液状化危険度がやや高い) (orange)
小(液状化危険度は低い) (green)
なし(液状化危険度は極めて低い) (blue)
対象外(詳細データなし) (grey)

(8) 大村地区

※静岡県第4次地震被害想定において、現在の科学的知見に基づき推計したのですが、自然災害を完全に把握することは困難です。個々の地点の推計結果にとらわれず、地域全体の傾向を示したものとして、報告を受けとめてください。

大村地区の課題のまとめ
 ・地区内では、想定されるハザード(津波・揺れ・火災)と昭和57年以降に建設された建物割合、木造建物割合を考慮すると、駅北が最も脆弱である。
 ・震度6強・7の揺れが想定される大覚寺・八楠に商業施設が集積し、越後島には工業施設が立地しているため、経済的被害が懸念される。

地域特性にみる課題

- 人的被害**
- ① 津波による避難困難者の発生: 駅北で避難困難者が発生すると想定される。
 - ② 建物倒壊による人的被害・避難経路の途絶: 昭和57年以降に建設された建物割合は市の平均より高いが、地区の中では駅北で低い。想定される震度7の揺れの発生時には、建物倒壊による人的被害が懸念される。
 - ③ 液状化による人的被害・避難経路の途絶: 八楠の一部に液状化危険度ランク大が分布しており、人的被害が懸念される。
 - ④ 高い高齢化率: 高齢化率は約21%(市平均23.5%)であるが、地区内では越後島で高く、迅速な避難が困難となる可能性がある。

- 建物・交通施設被害**
- ⑤ 津波による建物倒壊: 駅北に浸水域が分布しており、津波による全壊建物数は約10棟と想定される。
 - ⑥ 地震動による建物倒壊: 駅北を中心に南部に震度7の揺れが想定されている。揺れによる建物全壊数は、約950棟と想定される。
 - ⑦ 液状化による建物倒壊: 八楠の一部に液状化危険度ランク大が分布しており、液状化による全壊建物数は約10棟と想定される。

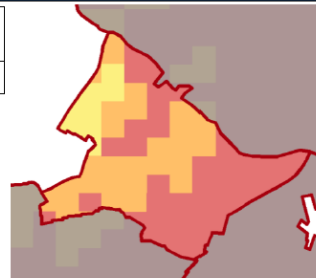
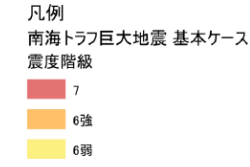
- 産業・経済被害**
- ⑧ 震度6強・7想定地域に立地する商業施設: 震度6強・7の揺れの発生が想定される大覚寺・八楠に商業施設が集積し、越後島には工業施設が立地しているため、経済的被害が懸念される。

課題図



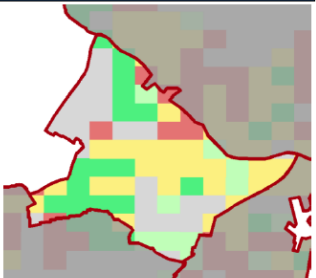
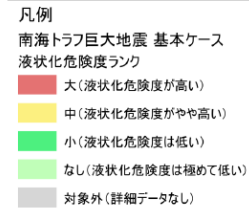
震度分布

- ② 建物倒壊による人的被害・避難経路の途絶
- ⑥ 地震動による建物倒壊



液状化危険度

- ③ 液状化による人的被害・避難経路の途絶
- ⑦ 液状化による建物倒壊



※静岡県第4次地震被害想定において、現在の科学的知見に基づき推計したのですが、自然災害を完全に把握することは困難です。個々の地点の推計結果にとらわれず、地域全体の傾向を示したものとして、報告を受けとめてください。

(9) 豊田地区

豊田地区の課題のまとめ

- ・地区内では、想定されるハザード(揺れ)と昭和57年以降に建設された建物割合・高齢化率を考慮すると保福島が脆弱である。
- ・震度6強・7の揺れが想定される小柳津に工業施設が立地しているため、経済的被害が懸念される。

地域特性にみる課題

人的被害

- ① 建物倒壊による人的被害:昭和57年以降に建設された建物割合は市の平均より高いが、地区の中では保福島で低い。想定される震度7の揺れの発生時には、建物倒壊による人的被害が懸念される。
- ② 液状化による人的被害:小土に液状化危険度ランク大が分布しており、人的被害が懸念される。
- ③ 高い高齢化率:高齢化率は約19%(市平均23.5%)であるが、地区の中では保福島で高く、迅速な避難が困難となる可能性がある。

建物・交通施設被害

- ④ 地震動による建物倒壊:ほぼ全域で震度7の揺れの発生が想定されている。揺れによる建物全壊数は、約1300棟と想定される。
- ⑤ 液状化による建物倒壊:小土に液状化危険度ランク大が分布しており、液状化による全壊建物数は、市内で3番目に多い約10棟と想定される。

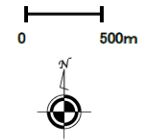
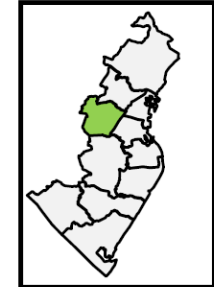
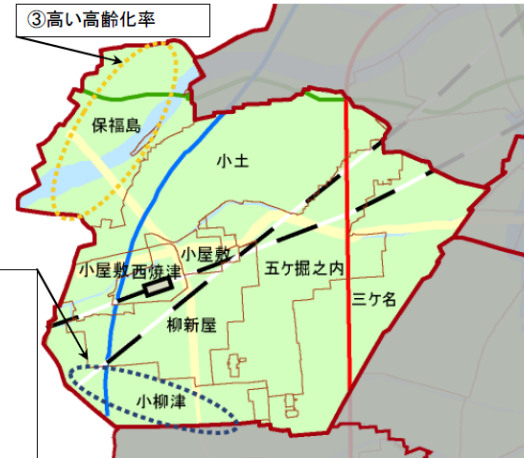
産業・経済被害

- ⑥ 震度6強・7想定地域に立地する工業施設:震度6強・7の揺れが想定される小柳津に工業施設が立地しているため、経済的被害が懸念される。

課題図

凡例

- 震度6強・7想定地域に立地する工業施設
- 高い高齢化率
- 地区境界
- 鉄道
- 道路種別
 - 高速自動車道
 - 一般国道
 - 主要地方道
 - 一般都道府県道
- 河川



⑥震度6強・7想定地域に立地する工業施設

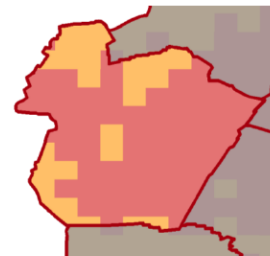


震度分布

- ①建物倒壊による人的被害
- ④地震動による建物倒壊

凡例

- 南海トラフ巨大地震 基本ケース
- 震度階級
 - 7
 - 6強
 - 6弱

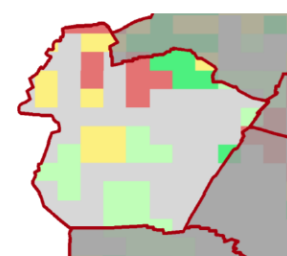


液状化危険度

- ②液状化による人的被害
- ⑤液状化による建物倒壊

凡例

- 南海トラフ巨大地震 基本ケース
- 液状化危険度ランク
 - 大(液状化危険度が高い)
 - 中(液状化危険度がやや高い)
 - 小(液状化危険度は低い)
 - なし(液状化危険度は極めて低い)
 - 対象外(詳細データなし)



※静岡県第4次地震被害想定において、現在の科学的知見に基づき推計したのですが、自然災害を完全に把握することは困難です。個々の地点の推計結果にとらわれず、地域全体の傾向を示したものとして、報告を受けとめてください。

(10) 大富地区

大富地区の課題のまとめ

- ・地区内では、想定されるハザード(揺れ・液状化)と昭和57年以降に建設された建物割合を考慮すると、三和が特に脆弱である。
- ・地区別にみると、揺れによる全壊建物数が市内で3番目に多い地区である。
- ・震度6強・7の揺れが想定される大島に工業施設が立地しており、経済的被害が懸念される。

地域特性にみる課題

人的被害

- ① 建物倒壊による人的被害:地区内の昭和57年以降に建設された建物割合は市の平均より高いものの、地区の中では三和において低い。想定される震度6強・7の地震発生時には、建物倒壊による人的被害が懸念される。
- ② 液状化による人的被害:大住と三和に液状化危険度ランク中が分布しており、人的被害が懸念される。
- ③ 高い高齢化率:高齢化率は約23%(市平均23.5%)であるが、地区内では中根において高齢化率が高く、迅速な避難が困難となる可能性がある。

建物・交通施設被害

- ④ 地震動による建物倒壊:ほぼ全域に震度6強の揺れが想定されており、揺れによる建物全壊数は、約1490棟と想定される。

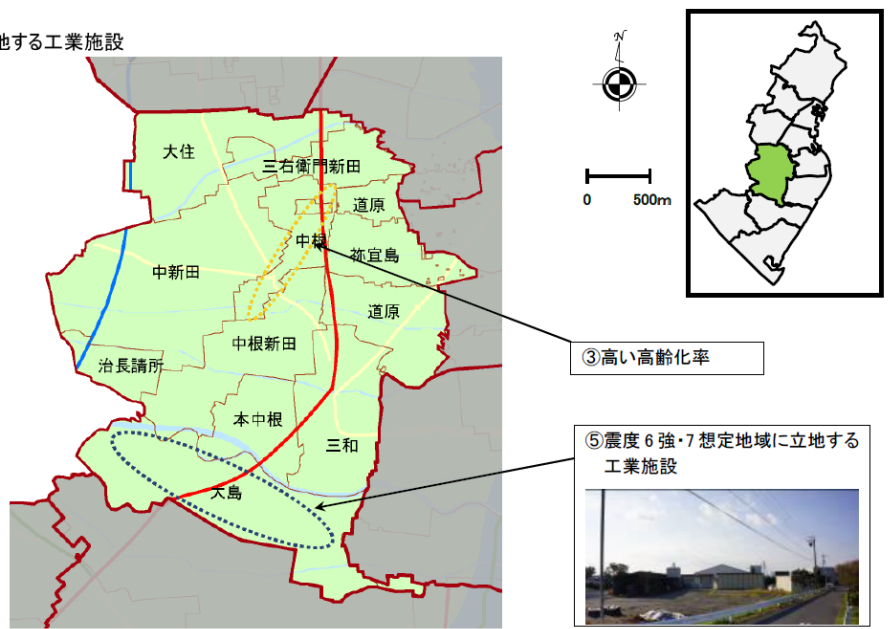
産業・経済被害

- ⑤ 震度6強・7想定地域に立地する工業施設:震度6強・7の揺れの発生が想定される大島に工業施設が立地しており、経済的被害が懸念される。

課題図

凡例

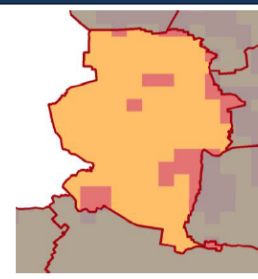
- 震度6強・7想定地域に立地する工業施設
- 高い高齢化率
- 地区境界
- 鉄道
- 道路種別
 - 高速自動車道
 - 一般国道
 - 主要地方道
 - 一般都道府県道
- 河川



震度分布

- ① 建物倒壊による人的被害
- ④ 地震動による建物倒壊

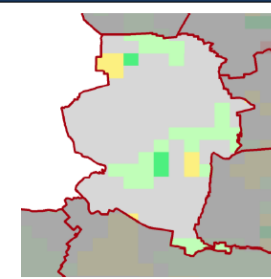
- 凡例
南海トラフ巨大地震 基本ケース
震度階級
- 7
 - 6強
 - 6弱



液状化危険度

- ② 液状化による人的被害

- 凡例
南海トラフ巨大地震 基本ケース
液状化危険度ランク
- 大(液状化危険度が高い)
 - 中(液状化危険度がやや高い)
 - 小(液状化危険度は低い)
 - なし(液状化危険度は極めて低い)
 - 対象外(詳細データなし)



(11) 大井川西地区

※静岡県第4次地震被害想定において、現在の科学的知見に基づき推計したのですが、自然災害を完全に把握することは困難です。個々の地点の推計結果にとらわれず、地域全体の傾向を示したものととして、報告を受けとめてください。

大井川西地区の課題のまとめ

- ・地区内では、想定されるハザード(揺れ・火災)と昭和57年以降に建設された建物割合を考慮すると、上泉が特に脆弱である。
- ・震度6強・7の揺れの発生が想定される大井川沿い(相川・西島)に工業施設が立地しており、経済的被害が懸念される。

地域特性にみる課題

人的被害

① 建物倒壊による人的被害:地区内の昭和57年以降に建設された建物割合は市の平均より高いものの、地区の中では上泉において低い。想定される震度6強・7の地震発生時には、建物倒壊による人的被害が懸念される。

② 液状化による人的被害:西島に液状化危険度ランク中が分布しており、人的被害が懸念される。

建物・交通施設被害

③ 地震動による建物倒壊:ほぼ全域に震度6強が分布し、揺れによる建物全壊数は約470棟と想定される。

産業・経済被害

④ 震度6強・7想定地域に立地する工業施設:震度6強・7の揺れの発生が想定される大井川沿い(相川・西島)に工業施設が立地しており、経済的被害が懸念される。

課題図

凡例

震度6強・7想定地域に立地する工業施設

地区境界

鉄道

道路種別

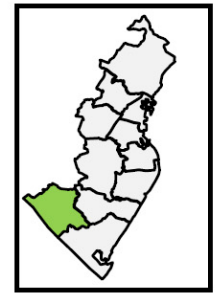
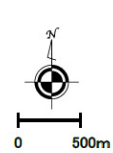
高速自動車道

一般国道

主要地方道

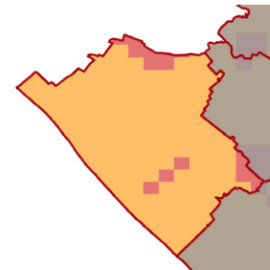
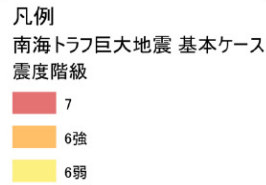
一般都道府県道

河川



震度分布

- ①建物倒壊による人的被害
- ③地震動による建物倒壊



液状化危険度

- ②液状化による人的被害
- 凡例
南海トラフ巨大地震 基本ケース
液状化危険度ランク
- 大(液状化危険度が高い)
 - 中(液状化危険度がやや高い)
 - 小(液状化危険度は低い)
 - なし(液状化危険度は極めて低い)
 - 対象外(詳細データなし)

